

	福島県		県中地域				須賀川・岩瀬地区				石川地区				田村地区			
	第39週	第38週	第39週		第38週		第39週		第38週		第39週		第38週		第39週		第38週	
	感染症動向	感染症動向	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報	感染症動向	学校欠席者情報
インフルエンザ	18	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	9	10	0	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	69	55	5	0	1	0	3	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0
感染性胃腸炎	80	111	30	3	48	3	30	3	46	2	0	0	0	1	0	0	2	0
水痘	6	3	0	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0
手足口病	18	27	0	0	1	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
伝染性紅斑	16	6	1	2	2	1	1	0	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0
突発性発疹	23	23	4	0	3	0	3	0	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0
ヘルパンギーナ	107	136	3	2	5	1	1	0	1	0	0	1	0	0	2	1	4	1
流行性耳下腺炎	16	10	4	3	2	0	3	1	0	0	1	2	1	0	0	0	1	0
RSウイルス感染症	103	117	7	2	13	2	6	0	10	0	0	2	0	2	1	0	3	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0		0		0		0
流行性角結膜炎	17	21	0	1	0	0	0	1	0	0		0		0		0		0

※平成30年1月1日より百日咳が全数把握疾患となりました。また、風しんの届出が「診断後7日以内」から「診断後直ちに」と変更になりました。
 ※平成30年5月1日より急性弛緩性麻痺が全数把握疾患となりました。

【感染症発生動向調査】 ※定点医療機関からの情報をもとに集計 【学校欠席者情報】 ※保育園、幼稚園、小中学校、高等学校の欠席者情報です。

県中地域の状況	
流行中	<p>〈RSウイルス感染症〉 RSウイルスの感染による呼吸器感染症です。症状は軽い風邪様の症状から重い肺炎まで様々です。感染経路は飛沫感染、接触感染です。</p>
小流行中	<p>〈ヘルパンギーナ〉 発熱と口腔粘膜にあらわれる水疱性の発疹を特徴とした急性のウイルス性咽頭炎であり、乳幼児を中心に流行します。感染経路は接触感染を含む糞口感染と飛沫感染です。</p>

※飛沫感染
患者の咳やくしゃみのしぶきに含まれる細菌を吸い込むことで感染します。マスクの着用や咳エチケットを実施してください。

※接触感染
細菌が付着した手で口や鼻に触れることで感染します。手洗い、うがい、頻りに人が触れ場所(ドアノブ等)についての環境整備など基本的な対策を徹底することが必要です。

※糞口感染
接触感染の一種。便の中に排泄されたウイルスが口に入って感染します。排泄後の手洗い、オムツの適切な処理が必要です。

福島県内で2例目の風しんの発生がありました

○福島県内で2例目の風しんの発生報告がありました

- 福島市の40代男性が風しんに感染していたことが、医療機関で検査し9月27日に風しんが確定しました。
- 1例目に確認された30代男性と同じ製造業の工場に働いていたことが分かっています。

○全国での風しん流行状況

- 平成23年から海外で感染して帰国後発症する輸入例が散発するようになり、平成25年に14,344例の報告があり、風しんが全数報告疾患になってから平成20年以降最も多い報告数となりました。
- 平成30年(2018年)第1~38週の風しん患者累積報告数は770例です。平成20年の全数届出開始以降では平成25年、平成24年に次いで3番目に多い報告数です。

【平成30年第1~38週の発生状況】

- 地域別には東京都(239人)、千葉県(174人)、神奈川県(80人)、埼玉県(54人)、愛知県(44人)となっています。
- 推定感染源は何らかの記載があった90人中、職場の同僚・職場での流行等、「職場」と記載があった者が41人と最多で、その他、家族、友人、コンサート/ライブ、通勤途中、旅行/出張等の記載がありました。
- 報告患者の96%(739人)が成人で、男性が女性の4.8倍多い(男性638人、女性132人)です。
- 男性患者の年齢中央値は41歳(0~84歳)で特に30~40代の男性に多く(男性全体の63%)、女性患者の年齢中央値は29歳(1~76歳)で、特に妊娠出産年齢である20~30代に多い(女性全体の58%)です。
- 予防接種歴は無し(186人:24%)、不明(524人:68%)で92%を占めています。

従業員の皆様へ

自分自身だけでなく、家族や一緒に働く方を風しんからまもるために、下記の対策をご検討ください。

<p>1 妊婦を希望する女性は... 妊娠前に風しんの抗体検査をご検討ください。</p> <p><small>※抗体価が低い場合は、予防接種を検討しましょう。</small></p>	<p>2 妊娠中の女性は... ご家族の方に風しんの抗体検査を相談して買ってください。</p> <p><small>※抗体価が低い場合は、予防接種を検討しましょう。 ※妊娠は風しんの予防接種を受けることができません。妊娠中で予防接種を受けられない場合には、入浴を避けるなど、風しんにかかっている可能性がある人と接触を可能な限り避けてください。</small></p>	<p>3 働く皆様方は... 体調不良の時は無理しない 風しんの感染拡大を防ぐためには、他人にうつさないことが大切です。 ※体調がすぐれない場合には、無理して外出しないようにしましょう。 ※どうしても外出が必要な場合には、マスクを着用しましょう。 ※風しんを疑う症状(発熱、発疹など)が出た際は、医師に相談しましょう。</p>
--	--	--

あなたの職場は 風しん予防対策をしていますか?

今、風しんにかかる患者のうち、働く年齢層の方が多くなっています。
最も心配なのは、妊婦を経由して、赤ちゃんが先天性風しん症候群になることです。

事業者の皆様へ

健康で安心な職場の環境整備のため、下記の対策をご検討ください。

<p>1 従業員が抗体検査や予防接種のために医療機関などの受診を希望した場合には、ご配慮ください。</p>	<p>2 入社時などに、予防接種の記録の確認を本人に呼びかけるようにしてください。</p>	<p>3 職場での感染予防のため、風しんにかかった人の休職についてご配慮ください。</p>
--	--	--

厚生労働省 風しんについて、くわしくはこちらへ → [風しん 厚生労働省](https://www.mhlw.go.jp/index.html)

出典：厚生労働省ホームページ (https://www.mhlw.go.jp/index.html)

この情報に関するお問い合わせ先：県中保健福祉事務所 医療薬事課 感染症予防チーム